

和歌山県の国際化戦略

和歌山県企画部文化国際課国際班

基本的な考え方

世界的な規模で、人やモノ、情報がダイナミックに行き交う今日において、グローバルな視点から本県の発展、成長を考える必要があります。特に人口減少に伴う国内市場の縮小などが懸念されるなか、アジアをはじめとした海外の活力を積極的に取り込むことは、有効な手段の一つと考えています。したがって、各国と単に形式だけの交流ではなく実質的な交流を図るべく、国際的な視野をもって施策を進めていくことが重要と考えています。

和歌山県の国際交流

本県では、これまで国際交流を推進するため、歴史的につながりのある諸外国をはじめ、海外の諸地域並びに県人会と連携してさまざまな事業を実施しています。

1. 在外県人会との交流

和歌山県は、戦前戦後を通じて多くの県民が、米国やブラジルをはじめとする南米に移住した、いわゆる「移民県」です。この歴史的なつながりを大切にしながら、移住された方々が組織する各県人会との交流を促進してきました。本県から移住された方々が、進取の精神に富んだ紀州人としての気概を一時も忘れることのないよう、定期的に母県の情報を提供するとともに、県としても現地の情報を入手して国際化推進の一助としてきました。しかし、戦後60年余りが過ぎ、移民第1・第2世代の方々の高齢化に伴い、第3世や第4世に世代が移っていくにつれて、日本人としてのアイデンティティーや日本語だけでなく本県とのつながりも希薄化してきています。現地社会の一員

となることは、移住された方々にとっては喜ばしいことではありますが、出身県とのつながりが次第に失われていくということは、日本の国益という点からも、また家族にとっても大変寂しいことであります。そのなかで、在外県人会は外国に居を移しつつも郷土愛を失うことなく、地元社会へ貢献し地域の発展や日系人の地位安定のために存続してきた歴史をもって、今日に至っています。本県では、グローバルな社会になった現代こそ、県人会の意義を再び思い起こし、その思いを次世代につないでいくことが重要であると考えています。先人たちが果たした大きな功績を忘れることのないよう、県事業において県人会の子弟を県内一般家庭に招き、ホームステイや県内視察を通じて郷里の文化や風俗を理解し、自身と和歌山との絆を強める機会を提供しています。

2. 友好姉妹県州（都市）提携先との交流

本県では、1984年に中国の山東省、1993年にフランスのピレネーオリアンタル県、1995年に米国フロリダ州、1996年にメキシコのシナロア州と提携を実施しました。そのほか、道というものを主題にした友好提携として、1998年に世界遺産に登録されているスペイン・ガリシア州の「サンティアゴへの道」と和歌山県の「高野・熊野参詣道」の姉妹道提携があります。

中国の山東省との交流では、2008年から環境分野の専門家を派遣するとともに、研修生を受け入れて各種研修を実施しているほか、県職員の派遣を実施するなど実質的な交流に努めています。また、2011年には米国フロリダ州と、経済や観光・県産品のプロモーションを念頭に、「オレンジパートナーシップ協定」（和歌山県・フロリダ州ともにみかん・オレンジの一大産地であることから、

オレンジパートナーシップ協定と名付けました)を締結しました。このほか2012年には、スペイン・ガリシア州との間で世界遺産を中心としたプロモーション、交流の深化を図るべく連携強化の覚書を締結しました。また、日本・スペイン交流400周年となった2014年5月には、田辺市とサンティアゴ・デ・コンポステーラ市が観光交流協定を締結し、県州だけでなく都市間での交流も活発化しています。今後はさまざまな機会を捉えて共同プロモーションを実施していく予定です。

3. 友好姉妹県州（都市）提携先以外との交流

国際交流は、何も友好姉妹県州（都市）先に限ったことではありません。国際化を進めるためには提携いかにかわらず、メリットがある地域とは連携を強化していくことが必要です。本県でも諸外国との交流を模索していますが、なかでもトルコ共和国とは、歴史的にも大変深いつながりがあることから交流に力を入れています。

1890年（明治23年）9月16日、オスマントルコ帝国が派遣した初めての親善訪日使節団を乗せた軍艦エルトゥールル号が、本県串本町大島檜野崎沖で台風による強風と高波によって座礁し、沈没しました。この大惨事により乗組員587人の尊い命が奪われましたが、近隣住民の懸命の救護活動により、69人の生命が救われ母国に帰国できました。この遭難事故において大島の住民たちが人道的な行動を行ったことが、約100年後の1985年イラン・イラク戦争時において、テヘランに取り残された邦人をトルコ航空機が救出するといった今日の日本トルコ友好親善関係を象徴する出来事につながっていくこととなります。このようにほかに類を見ない、歴史的なつながりを有するトルコと和歌山は、互いに成長分野を活用しながら幅広く交流の裾野を広げ、友好親善関係の深化を図っています。

最近の取り組みとしては、香港（2013年7月、経済交流の活性化）、インド・マハラシュトラ州（2013年10月、観光交流・食品加工・企業間協力の推進）、台湾（2014年2月、県内企業と台湾企業との連携）と覚書を締結しました。今後はこれらの地域とさまざまな交流を展開していきたいと考えています。



香港との経済交流に係る覚書署名

国際感覚を有する人材育成

若い頃に体験したことは大人になって大きな財産となります。本県では、時代に即した国際感覚を有する若者の育成を積極的に推進するため、友好関係にあるスペイン・ガリシア州やブルネイと青少年交流事業を実施して、青少年の異文化理解に努めています。そのほか、次代の県行政を担う職員を育てるため中国山東省をはじめ諸外国に若手職員を派遣し、さまざまな業務に従事することにより、優れた国際感覚を持った職員を育成しています。

おわりに

以上、和歌山県の国際交流について紹介させていただきましたが、県人会や友好姉妹県州（都市）提携については、時代の流れに適合した新たな活動が求められています。また、諸外国とも実質的な交流により具体的な成果を出していく必要があります。本県がより発展、成長していくためには、時代の潮流を踏まえ課題を的確に抽出することは勿論ですが、国際化への取り組みをダイナミックに展開していけるよう、常にアンテナを高くし努力していかなければいけません。国土が海に面している日本の中で特に本県は、エルトゥールル号での救助活動、移民先での活躍に代表されるように国際人としての素養が高い県民性を持っています。そこで磨かれた国際感覚は現在においても陰ることなく、脈々と受け継がれています。国際交流推進役は「人」です。本県では老若男女を問わず、誰もが国際舞台の主演を自覚し行動できる人間を育めるような国際交流を実施していきたいと考えています。